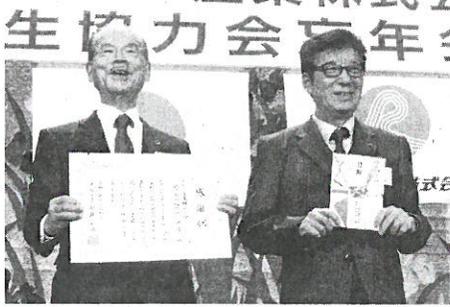




大阪市に1千万円 リバー産業が寄付

中之島を彩る「OSAKA A光のルネサンス」の魅力向上に活用してもらおうと不動産開発・販売を手がけるリバー産業が大阪市に1千万円を寄付し、同市内で贈呈式が行われた。写真。河啓一社長から目録を手渡された松井一郎市長は「大阪は『行くべき都市』『住みたい街』と世界から評価をいただいている。これからも幸せになれる大阪をつくっていききたい」と述べ、



感謝状を贈った。同社は環境に配慮し、緑が豊かな庭園を整備した分譲マンションを展開。人手不足の建設業界で職人を中心に外国人、女性、若手を中心にする方針を打ち出している。河社長は、国連が

掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」の一つである「住み続けられるまちづくりを」という目標に沿って、同社が自然と融合したもので、ものづくりに取り組んでいることを説明した。